

精子保管での加温の有無が体外受精の成績に影響するか ～同一患者での検討～

眞鍋麻衣¹、佐藤学¹、中岡義晴¹、森本義晴²

¹IVF なんばクリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

当院では精液採精後から調整するまで 37℃で加温し保管していた。しかし、加温保管は精液中の細菌増殖による精子への影響が懸念される為、2016 年 6 月から室温保管に変更した。今回は、調整前の精液の保管温度が体外受精の成績へどう影響するか検討する為、加温保管（以下加温）と室温保管（以下室温）の両方で体外受精を行っている患者の培養成績と c-IVF 実施率を比較した。

【方法】

2013 年 1 月～2016 年 5 月に加温精子を使用し体外受精を行った 1156 周期 4086 個と 2016 年 6 月から 2018 年 6 月に室温精子を使用した 829 周期 2900 個の採精場所、受精方法別に正常受精率、異常受精率、胚盤胞率、胚利用率を比較した。また、同期間での c-IVF 予定の 472 周期と 316 周期の c-IVF 実施率を採精場所別に比較した。

【結果】

患者年齢は年々経過の為、全ての区で加温に比べ室温が高かった（39 歳 vs. 40 歳, $P < 0.01$ ）。c-IVF では、自宅採精では異常受精率、胚盤胞率、胚利用率で差がなく、正常受精率（72.3% vs. 84.0%）で室温が高かった（ $P < 0.01$ ）。院内採精では、正常受精率、異常受精率で差がなく、胚盤胞率（57.5% vs. 46.8%）で加温が高く、胚利用率（50.6% vs. 56.1%）で室温が高かった（ $P < 0.05$ ）。ICSI では、自宅採精では正常受精率、異常受精率で差がなく、胚盤胞率（43.3% vs. 51.5%）、胚利用率（48.3% vs. 55.6%）で室温が高かった（ $P < 0.05$ ）。院内採精では、正常受精率、異常受精率で差がなく、胚盤胞率（41.8% vs. 52.0%）、胚利用率（47.0% vs. 54.1%）で室温が高かった（ $P < 0.01$ ）。c-IVF 実施率では、院内採精で差がなく、自宅採精で（41.4% vs. 67.0%）室温が高かった（ $P < 0.05$ ）。

【考察】

室温保管の方が、良好な結果が得られていた。細菌増殖によるダメージや調整前の加温が長時間になる場合の精子が受ける影響について検討していきたい。